

「-的」の連用修飾用法：
「比較的」の語幹連用用法(「-的+φ+被
修飾語」形式)を中心に

金囁泳

Yu Young, Kim. 2012. Japanese adverbial usage of “-的(-teki)”— Focusing on an adverbial form(-的+φ+modificand) of “比較的 Hikaku-teki”—. *Language Information*. Volume 14. 31-59. “-的(-teki)” has often been called as an adjective verb in many theses and dictionaries until this time, but it has a unique form of adverbial usage(“-teki+φ+modificand”, “stem form of adverbial usage”) as an adjective verb; an adjective verb usually does not have that form. To find the basis of this difference between “-的(-teki)” and an adjective verb, I inquired into certain words which have the stem form of adverbial usage(“-teki+φ+modificand”) by considering them in connection with their transition in Meiji and Modern Japanese. The results of this analysis are as follows: There is a certain inclining to or a restriction on syntactic usage of “-的(-teki)”, which is caused by the meaning of its stem. And this inclining or restriction causes the stem form of adverbial usage(“-teki+φ+modificand”). For example, a restriction on syntactic usage of “比較的 Hikaku-teki” is caused by its meaning of stem, “比較Hikaku”, and this restriction consequently leads to its deriving of the stem form of adverbial usage(“-teki+φ+modificand”, e.g. 税金が比較的高い). Moreover, there are significant differences in the modificand of word class between above such “比較的Hikaku-teki” which has the stem form of adverbial usage and the other “-的(-teki)” which do not have the stem form of adverbial usage; the former prefers an adjective or an adjective verb to a verb as a modificand, but the latter is quite the reverse. And the former cannot be directly used as a predicate but the latter can be. Finally, if both of them are classified according to nature as an adverb, the former can be classified as a “sentence adverb” but the latter can be classified as a “state adverb. (Division of Studies on Cultural Expressions, Osaka University)

Key words : 的(teki), suffix, suffix of Chinese origin, adverbial usage, stem form of adverbial usage(-的+φ+modificand)

1.はじめに

中国俗語文学と西洋文献の翻訳書の影響によって日本語に導入されて多く使われるようになった「一的」は、先行研究や多くの辞書記述において形容動詞だと言われている。しかし、「一的」は一般の形容動詞とは異なって“ナ”を伴わずに「一的+被修飾語」という形式の装定・連体用法(語幹連体用法, e.g. 庶民的性格, 積極的支持)を有する。金晞泳(2010b)は、そのような用法の成立原因が「一的」の意味における歴史的な変遷にあると述べた。ところが、そのような「一的」は、「一的」の装定・連体用法においても(1)c'の一般形容動詞とは異なって、語幹連体用法(“ニ”を伴わない)が可能な場合(1)aとそうではない場合(1)bを有する。

- (1) a. 僕は比較的平凡な命名を … 345頁¹⁾
- b. 厳然挑戰的にヴァレンティンを見て … 380頁²⁾
- b' *厳然挑戰的ヴァレンティンを見て …
- c. みなまるで初めて見るように新鮮に感じられた。³⁾
- c' *みなまるで初めて見るように新鮮感じられた。 凡例) b'とc'は、稿者による。

そこで稿者は、「一的」を一律に形容動詞という品詞枠組みに閉じ込めて例外を増やすのではなく、より大きなカテゴリー(擬似形容動詞, 金晞泳(2010b: 99)参照)を設定し、実際の用例における分析を行う必要があると考える。そうすることによって、「一的」に内在する形容動詞のような用法とそうではない多様な用法を抽出し、それぞれの用法の発生原因を明らかにすることができると判断する。本稿では、その過程の一つとして、語幹連体用法が可能な「一的」(e.g. 比較的, 可及的など)が存在する原因を明らかにするために、明治期と現代日本語における語幹連体用法を有する「一的」を通時的に考察し、その特徴を明らかにする。また、それによって「一的」の起源や変遷過程もより明らかになると考えられる。

2. 先行研究と問題提起

-
- 1) 『二十世紀』明治44年(1911) George Bernard Shaw原作・松居松葉譯
 2) 『二十世紀』明治44年(1911) George Bernard Shaw原作・松居松葉譯
 3) 『ぼくの大好きな青髭』1977, 庄司薫, 中央公論社

今までの研究では、管見の限り、語幹連用用法が可能な“比較的・可及的・可成的”などの「一的」の発生とその原因に関する考察はほとんど行われていない。しかし、その中で原由紀子(1986)は、現代中国語との比較を通じて「一的」の語基と意味に関して考察を行っており、“比較的”に関して次のような重要な言及を残している。

- (2) … 中国語で副詞として用いられ、形容詞用法のないものは、日本語で「一的」とならないが、「比較的」は例外である。「比較」には副詞としての用法はなく、名詞或は動詞となる。原(1986:75)

原氏は、(2)のように、“比較的”の語基“比較”には形容詞用法がなく、名詞或は動詞の意があるといい、元々はそのような語は「一的」の語基として相応しくないが、“比較”は例外的に許容されていると述べている。原氏は、“比較的”の例外的な要因を語基である“比較”の意味に求めた点では稿者と意見を共にしている。しかし、このような考察は現代中国語と日本語における考察であって、果たして発生期においても有効であるかに関してまず検証する必要がある。また、“比較的”以外の語幹連用用法を持つ「一的」の発生はどのように理解するべきかに関する十分な答えになっているとは言い難い。従って本稿では、「一的」の連用用法の歴史的な変遷過程を視野に入れて、その中で語幹連用用法が「一的」の語基の意味とどのような関係を結びながら成長したかに関して考察を行う。

また、今回取り上げる“比較的”など、「一的」の連用用法の性質を明らかにするために、副詞に関する先行研究を踏まえて、その様々な基準を取り入れて分析を行いたい。まず、工藤浩(1983)は“比較的”が、非常に・大変(に)・はなはだ／わりあい・わりに・けっこう／すこし・ちょっと・少々などと共に、“程度副詞⁴⁾”であると述べた。同氏は主に“情態副詞”が動詞と組み合わせられるのに対して、“程度副詞”は種々の形容詞(いわゆる形容動詞を含めていう)と組み合わせられるのを基本とすると述べ、この点を程度副詞が単なる意味分類ではない文法的な品詞類の一つとして認められる理由としてあげた。また、森山卓郎(1985)は、程度副詞を“量的程度副詞”と“純粹程度副詞”の二種に分類したが、まず“量的程度副詞”とは、“一ガ(程度副詞)アル⁵⁾”というパターンが可能で、量的概念も内包する程度副詞をいう。続い

4) … 程度副詞の規定は、<(相対的な)情態性の意味をもつ語にかかって、その程度を限定する副詞>というものだろう … (工藤:1983)。

5) 1) *金が大変／非常にある。(純粹程度副詞) 2) 金がかなり／随分ある。(量的程度副詞) 凡例) 但し、下線は稿者によるもの。森山(1985:61)

て、量的概念を内包せず、純粹に程度だけをあらわす程度副詞を“純粹程度副詞”という。同氏は、“比較的”を含め、“かなり、随分、結構、やたら、多少”などを量的程度副詞とし、“非常に、大変、はなはだ、著しく、あまりに”などを純粹程度副詞としてあげた。

一方、渡辺実(1990)は“比較的”に関しては言及していないが、構文構造⁶⁾によって、程度副詞を“発見系”と“比較系”に二分し、その代表例としてそれぞれ“とても”と“もっと”を順にあげるなど、様々な基準を設定し、さらに細かく程度副詞を分類した。また時衛国(1999)は、“比較的”は社会的・個人的な基準に従って物事の程度性を測る程度副詞であるが、その程度性は相対的なものであって、どの基準で測られても絶対的に大きいとも、小さいともいえないと述べた。また同氏は、渡辺(1990)の構文による程度副詞の分類(“計量・比較構文”)を踏まえて、さらに細かく“典型比較構文、並列比較構文、提示比較構文”といった三種類に分類し⁷⁾、“比較的”はその中で唯一“典型比較構文”とは生起しないと述べた⁸⁾。それに加え、“比較的”は被修飾語として、程度性の含まれた動詞や形容詞・形容動詞を主限定の対象とし、情態の程度性を修飾する文法機能しかもたないが、“～方だ”という語句と共にすれば、その文法機能が拡張され、動作・行為に対する類別限定が可能になると述べた⁹⁾。本稿では、以上のような先行研究を踏まえ、“比較的”とその他の「一的」の連用用法を副詞という観点から比較して考察する。

3. 調査資料

-
- 6) 1) Xは——Aだ：計量構文
 e.g. a) リスはとっても可愛い動物だ。b) *私はいまもっと悲しいです。→ “発見系”
 2) XはYより——Aだ：比較構文
 e.g. a) *ひかりはこだまよりとても速い。b) 今よりもっとみじめな生活。→ “比較系”
 cf. 混在比較：a) 彼は多少なまいきな所があるね。
 b) 彼は彼女より多少話がわかる。 渡辺(1990：1-3)
- 7) 1) 典型比較構文：XはYよりAだ。 e.g. 今日は昨日より暖かい。 2) 並列比較構文：XはAだが、YはBだ。 e.g. 昨日は暖かったが、今日は寒い。 3) 提示比較構文：XはAだ。 e.g. 今日は暖かい。 時(1999：242)
- 8) 「比較的」が「典型比較構文」も生起しないのは、「比較的」が物事の比較に重点を置くので、程度の大きさも小ささも示すものの、いずれも曖昧なもので、確定されたものではない。したがって、二つの事柄の程度の高低・大小などを問題とする「典型比較構文」にはふさわしくない。時(1999：245)
- 9) 1) 私の家ではフランス料理は比較的食べる方だ。
 2) *私の家ではフランス料理は比較的食べる。 時(1999：252)

本稿における調査資料は、以下の(3)のようである。

- (3) a. 明治期における合計162件(翻訳書73件・非翻訳書89件)のテキスト。
 - 詳しい目録は、参考文献を参照。
- b. その他のデータベース
 - 『朝日新聞戦前紙面データベース』(2001～2002)
 『読売新聞』(1999～2002)
 『婦人畫報・臨川書店編集部編』(2004～2005)
 『婦人公論』(2006)
 『太陽コーパス』一雑誌『太陽』(1895-1928)
- c. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
 「BCCWJ領域内公開データ(2008年度版のモニター公開データ)」中、
 一部。
 - 書籍(約3,000万語)中、書籍OB・白書(約480万語)・Yahoo!知恵袋
 (約520万語)・国会会議録(約490万語)。

4. 分析方法

本稿では、金臨泳(2012)と同様、時期別に収集した用例を、主に用法・活用に従って分類して考察する。すなわち、(4)のように、統語論的に「装定」「述定」「その他」に分類し、さらに文中での意味と機能によって「装定」を「連用用法」「連体用法」に分類し、それぞれの用法を形式別に分類した。

(4) a. 装定用法

1)連用用法:㊦ニ連用用法[客観的ニ判断する]

㊦語幹連用用法[比較的早い]

2)連体用法:㊧ナ(ル)連体用法[客観的ナ判断]

㊧ノ連体用法[暫らく学理的の問題を棄置き]¹⁰⁾

㊦語幹連体用法[客観的判断]

㊦その他の助動詞連体用法[独断的らしい声]¹¹⁾

b. 述定用法:㊨語幹述定用法

[…革命政府ヲ以テ唯暫時的ト見做テ其永續スベキ]¹²⁾

10) 「西洋娘節用」明治19年(1886)『明治文化全集』14巻569頁

11) 「滑稽氏」明治25年(1892)『明治翻譯文學全集』5巻287頁

②その他の助動詞述定用法

[デムーランハ革命的ニシテ乗権官アル政治ヲ…]¹³⁾

c. その他の用法:④名詞用法[他ノ飛散性的ヲ化生スヘキ酸類ハ…]

『化学分析表』明治12年(1879)

③その他:分類するに至らない用例[e.g. 題目・図表など]

5. 「一的」の連用用法と語幹連用用法

5.1 「一的」の連用用法の成立

本節では、「一的」の語幹連用用法に関する考察に入る前にまず、簡単に「一的」の連用用法の成立に触れてから論を進めたい。それは、語幹連体用法の発生原因が「一的」の意味の歴史的な変遷によって誘発されたことと同様(金囁泳(2010b・2011)参照), 語幹連用用法の発生原因もそのような意味の歴史的な変遷に根ざしたものと稿者は考えるからである。

「一的」は近世期の中国俗語文学における翻訳・訓読によって導入され、明治期に西洋文献の翻訳語に多く使われて広まった(金囁泳(2010b・2011・2012))。近世において中国俗語文学の「一的」は、その解釈は容易ではなかった故、その統語論的な意味と機能を明確にするために中国俗語文学の「一的」を訓読・翻訳するに際して「的」に“仮名”を下接するか、附訓した(e.g. 装定・連体用法には“ノ・カ(ガ)”, 装定・連用用法には“ニ”(以下の(5))など, 金囁泳(2011: 113-114)参照)。このような近世和文における“仮名”は、後に西洋語の派生法に対応させられ「一的」の事実上の文法表示を担うことになる(連体用法(積極的ナ行動), 連用用法(積極的ニ行動する))。

- (5) a. 邦人撲^レ的^ニ(ハタ)一交^シ(フミチガヘ), 跌^リ(コケ)在^ニ雪裏^ニ(ニ・2・ウ)
 b. 只得^ル(センカタナク)慢慢^ニ(ソロ／＼ト)捱^テ去^リ罷^リ(ニ・3・ウ)
 c. 把^レ被^テ(フトン)没頭没腦^ニ(スツボンカブリニ)蓋^ス下^ス(ニ・9・ウ)

凡例) 左ルビは括弧表記。

『小説三言』(1976): 『小説奇言』宝暦3年(1753)

金囁泳(2011: 114)

ところが、今回の調査によると、明治期から語幹連用用法を有する「一的」(5語・266例(比較的, 可及的, 可成的, 求心的, 遠心的))が見られ始める。上

12) 『仏國革命史・三卷』明治9年(1876)10章・31頁

13) 『仏國革命史・三卷』明治9年(1876)8章・51頁

記のような「一的」の用法の変遷過程において、このような文法表示である仮名“ナ”の省略形式(語幹連用用法)の発生は、語幹連体用法の発生も同時に考慮すると、両用法における弁別という側面で異例に見える(e.g. *積極的行動する, 積極的行動は…)。また、形容動詞の連用形としても異質な用法である。そこで、先行研究を踏まえ、明治期における装定用法(連体・連用)の変遷を簡単にまとめると、以下の表1ようになる。

表 1 明治期における「一的」の装定用法の変遷

| 「一的」の用法 時期 | | 装定用法 | | 語形成の原理 |
|---------------|-----------------------------|---|-------|-----------------------|
| | | 連体 | 連用 | |
| 明治初期 | 西洋語の派生法による影響 ¹⁵⁾ | ノ連体用法 | ニ連用用法 | 語基の抽象化 ¹⁴⁾ |
| 明治中期 | | 名詞 — 形容詞 — 副詞 System — Systematic — Systematically 組織(語基)+的 — 組織(語基)+的+(+) — 組織(語基)+的+(+) — 組織(語基)+的+(+) — 組織(語基)+的+(+) | | |
| 明治中期以後 | | 語幹連体 | ナ連体 | |

- 14) 「一的」は、それぞれ品詞が異なるなど多様な語基を持つが、話者はその語基に「的」を付することによって、それが持つ多様な属性・性質などの抽象的概念の中の一部に接近し、それを全面に持ち出して、話者の感覚による幅を与えることができる。その結果、「一的」は語基にまつわる曖昧で抽象的な意味を持つようになる。本稿では、そのような一連の過程を、「一的」における「語基の抽象化」とする。例えば、「出名的」「搭的」「客観的」「賣油的」の場合、それらの語基の品詞は多様であるが(順番に、形容詞・副詞・名詞・動詞)、語基に「的」を付することによって、それぞれ語基が持つ多様な抽象的概念の中で話者が必要とする一部分(「有名な」「笑う姿」「第三者の立場で」「油を賣る」)を、幾つかの統語論的な形式(e.g. 一的ナ, 一的ニ)に入れて自由に使えることができるようになる(e.g. 装定・述定・その他用法)。

cf. 1) 往来門ニ絶間ナキヲ, 便出名的(ゼンセイ)ノ姉妹トス …

『通俗赤繩奇縁』(1761)一・九・ウ

2) ロワ掩テ搭的(クツノ)ト三笑フテ曰, … 『通俗赤繩奇縁』(1761)一・九・ウ

3) コノ賣油的(秦氏ナリト云ヘバ, … 『通俗赤繩奇縁』宝暦11年(1761)二・六・オ

- 15) 明治期には、今まで和語に存在していなかった数多くの西洋の抽象概念や用語など(e.g. System, Democracy)が輸入されるようになった。また、それらの西洋語(主に英語)は、多くの場合に漢語名詞を以って翻譯されるが、その結果、明治期に数多くの新漢語(e.g. 組織, 民政)が生まれるようになる。とこ

「一的」は語基が持つ属性・性質などの概念の中で一部分を抽象化する語構成の原理を持つが、表1のように、明治中期以後、西洋文献における翻訳の影響で連体用法の形式の変化が行われた。詳しくは、ノ連体用法が衰退してそのほとんどが語幹連体用法に吸収される一方、状態性のみを表すナ連体用法が新しく使われるようになった。同時に連用用法においては語幹連用用法が見られるようになったが、そこで、語幹連体用法を有する「一的」の用例とその用法をあげて、連体用法と連用用法との変遷の相関関係を探ることにする。明治期において語幹連用用法を有する「一的」(比較的, 可及的, 可成的, 求心的, 遠心的)の装定用法の分布をまとめると、以下の表2になる。

表 2 明治期における「語幹」連用修飾用法を持つ「一的」の用法(延べ語数)

| 分類 | 用法 「一的」 | 装定用法 | | | | | | | | |
|----|------------|------|-----|-----|------|---|----|-----|----|-----|
| | | 連用修飾 | | | 連体修飾 | | | | | 計 |
| | | ニ | 語幹 | 計 | ナ(ル) | ノ | 語幹 | その他 | 計 | |
| ① | 比較的 | 86 | 232 | 318 | 0 | 6 | 15 | 1 | 22 | 340 |
| ② | 可及的 | 0 | 21 | 21 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 |
| | 可成的 | 0 | 9 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| ③ | 求心的 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 遠心的 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |

凡例) (3)aの明治期における「一的」の統計に、(3)bの中で「太陽」(1909年までのデータを合わせたもの。

ここで注目しなければならないことは大きく二点あると思われるが、まず明治期における語幹連用用法を持つ「一的」はいずれもナ連体用法を持たない点があげられる。また、“比較的”を除いた「一的」はいずれも語幹連用用法のみを持つが、“比較的”だけは唯一ナ連体用法を除いた全ての装定用法を持つ点もあげられる。それは言いかえると、このような語群の語幹連用用法と連体用法の間には何らかの相関関係が存在する可能性を示唆するということになる。つまり、語基の意味によって「一的」の統語論的な用法における偏りが発生する可能性も示唆するものと言

ろが、そのような西洋語は、主に名詞の語基に接尾辭(Derivational suffix)を付して、形容動・副詞(e.g. Systematic-Systematically, Democratic-Democratically)などを派生させる派生法を持っている。よって、明治期には、そのような“状態性を持つ西洋語の形容詞と副詞”の派生法に対応して翻譯するために、同じく装定用法を持つ中国俗語文學から由来した近世における「一的」の語構成(抽象的な意味を持つ語基+的, e.g. 出名的)を受け継いで適用したのである(e.g. 組織的(+)-組織的(ニ), 民政的(+)-民政的(ニ))。

えよう。そこで、まず“比較的”とその他の「-的」に二分して、それぞれの特徴を明らかにして論を進めたい。

5.2 語幹連用用法を有する語群—“比較的”とのVSその他の「-的」

表2によると、“比較的”とその他の比較において何より目に付くものは、用例数の大きな差である(340:34例)。また、現代日本語まで調査を広げると、以下の表3と表4のように、その差はさらに広がることが分かる(1018:17例)。

表3 現代日本語における“比較的”の用法分布(延べ語数)

| 用法 時期 | 装定 | | | | | | 述定 | | 計 |
|----------|------|-----|------|---|----|-----|-----|----|------|
| | 連用修飾 | | 連体修飾 | | | | 助動詞 | 語幹 | |
| | ニ | 語幹 | ナ | ノ | 語幹 | その他 | | | |
| 現代日本語 | 20 | 940 | 0 | 0 | 57 | 0 | 1 | 0 | 1018 |

凡例) 現代日本語におけるデータは、(3)cの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」によるもの。

表4 現代日本語におけるその他の「-的」の用法分布(延べ語数)

| 「-的」 用法 時期 | 可及的 | | | | 可成的 | | | | 求心的 | | | | 遠心的 | | | |
|------------------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 連用 | | 連体 | | 連用 | | 連体 | | 連用 | | 連体 | | 連用 | | 連体 | |
| | ニ | 語幹 | ナ | 語幹 |
| 現代日本語 | 0 | 15 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |

凡例1) 述定用法は上記の表から除外したが、唯一現代日本語の「求心的」における「述定」用法が1例を持つ。他の語における「述定」用法は、全て0例である。2) 現代日本語におけるデータは、(3)cの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」によるもの。

表3と表4によると、おおよそ“比較的”は明治期と現代日本語において生産性のある語幹連用用法を有する「-的」であると言っても過言ではない。しかし、その他の「-的」の場合、明治期には“可及的・可成的”が、また現代日本語には“可及的”がたまに使用されているくらいで、生産性のある語幹連用用法を有しているとは言い難い。そこで次節では、使用頻度が少ない順で、まず③“遠心的”と“求心的”、次に②“可及的”と“可成的”に関して考察を行い、各用例の特徴を明らかにする。

5.2.1 “比較的”VS“遠心的・求心的”③

“遠心的・求心的”の場合、そもそも“遠心・求心”という語自体は「-的」の

語基になることになんら形式的な制約はない(抽象化可能な漢語名詞, 注4及び金囁泳(2010a)参照)。よって, これからいくらかでも使用が拡大する可能性はあると考えられる。しかし, 実際の用例には明治期において2例のみ((6)a・b), また現代日本語においては1例しか見られない((6)c)。よって“遠心的・求心的”は“比較的”とは異なって決して生産性の高い「一的」の語基だとは言えない。そこで稿者は, “遠心的”の語幹連用用法は, 発生期における一時的な用法であって, 現代日本語まで発達できなかった用法だと判断するものである。

- (6) a. … 脊髓内ニ求心的傳播スルコト …
 「脳髓生理精神啓微」1889『明治文化全集』26巻・科学篇421頁
- b. … 運動神經内ニ遠心的傳播スルコト …
 「脳髓生理精神啓微」1889『明治文化全集』26巻・科学篇421頁
- c. あまりにも部屋が広く, それに比べて家具の数が圧倒的に少ないのだ。遠心的に拡大された非現実の生活空間。
 「ダンス・ダンス・ダンス」1988『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

一方, 現代日本語には, “遠心的”以外にも語幹連用用法を有する「一的」がいくつか存在しており, 以下の表5ようになる。

表 5 現代日本語における語幹連用用法を有する「一的」の用法分布(延べ語数)

| 「一的」 用法 | 連用 | | 連体 | | | 計 |
|------------|------|----|-----|------|----|------|
| | ニ | 語幹 | ナ | ノ | 語幹 | |
| 圧倒的 | 231 | 2 | 30 | 51 | 0 | 314 |
| 一時的 | 188 | 1 | 35 | 122 | 0 | 346 |
| 間接的 | 51 | 1 | 8 | 20 | 0 | 80 |
| 季節的 | 10 | 1 | 21 | 13 | 0 | 45 |
| 具体的 | 1840 | 1 | 345 | 1435 | 2 | 3623 |
| 経済的 | 221 | 1 | 446 | 193 | 2 | 863 |
| 自動的 | 254 | 1 | 0 | 6 | 0 | 261 |
| 宗教的 | 10 | 1 | 31 | 28 | 0 | 70 |
| 重点的 | 287 | 1 | 40 | 81 | 0 | 409 |
| 値段的 | 9 | 1 | 0 | 1 | 0 | 11 |
| 定期的 | 219 | 2 | 12 | 49 | 1 | 283 |
| 計 | 3320 | 13 | 968 | 1999 | 5 | 6305 |

凡例1)(3)c『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータによる。2)“可及的”は別項で再び述べるので除いた。

しかし, 表5のいずれの用法もその主な連用用法はニ連用用法であって, 語幹連

用用法の比率が特に低く、あるとしてもほとんどが1~2例に過ぎない。よって、これらの「一的」も“遠心的”のように、生産性のある語幹連用用法を有する語だとは言いがたい。さらにその実際の語幹連用用法をみると、ある傾向が見られる。それは、ほとんどの「一的」がその背後に“,”などが来て(4例・31%, (7)a具体的)、“ポーズ”
或は直後に来る語((7)a今後)を修飾する連体用法ではないということを明らかにしている。もしくは「又は(または)」などが続いて(5例・38%, (7)b重点的)、次にくる副詞((7)b緊急に)と並列していることを示している。このような傾向は全13例のうち9例・69%にまでわたって、これらの用法を見ると“比較的”のような生産性ある語幹連用用法を有しているとは言いがたいのである。

- (7) a. これについて具体的、今後どれほどのことが可能か、これも真剣に取り組んでいきたい、そして、もしそういうことが本当に日本の安全保障に役立ち、
…「参議院・外交防衛委員会」第162回国会、2005
b. 運輸省は、昭和57年度から、特に重点的に又は緊急に行う必要があり、
かつ多数の研究領域を総合することが必要な課題について運輸技術研究開発調査を実施している。

「平成11年版・科学技術白書」科学技術庁、1999

以上のような点で、“遠心的”と現代日本語における一部の語幹連用用法を持つ「一的」は、“比較的”とは異なると一時的な語幹連用用法であって、生産的な語幹連用用法を有する語だとは言いがたい。

ちなみに、表5に見える“自動的”と“値段的”の用例は、他の用例と異なって連体用法を持たないなど、連体用法の比率が相対的に低い反面、連用用法の比率が特に高い傾向を見せている¹⁶⁾。しかし、“自動”と“値段”という語基自体は、抽象化できる漢語名詞であって、他の語基と比べて「一的」の語形成の原理或は語基の種類・品詞など、いずれの条件においても特別な点は見出し難い。つまり、他の用例と区別される残された条件は、両語の意味的な側面における差のみであって、「一的」にはその語基の意味によって統語論的な用法における制約或は偏りが発生する可能性が存在していることが窺える。これについては、“比較的”に関し

16) 一方、今回の調査によると、「一的」の連体用法と連用用法の比率は、明治期に總2,342例中「1744例：39例＝74.47%：12.34%」であって、現代日本語に總59,989例中「34,917例：22,935例＝58.21%：38.23%」である。つまり、「一的」の装定用法は連用用法より連体用法の比率の方が平均的に高いことが分かる。

て述べるに際して再び考察することにする。

5.2.2 “比較的”VS“可及的・可成的”②

表2によると、明治期における“可及的”と“可成的”は、前節で述べた“遠心的”より比較的多く使われ、その中で“可及的”は現代日本語にまでその用法が確認できる。このような点を考慮すると、両語は“比較的”には及ばないが、やや生産性のある語幹連用用法を有する「-的」である可能性が窺える。そこで、さらなる考察のため、表2のデータに(3)bの雑誌・新聞のデータを合わせて明治から昭和までの用法の分布をまとめたが、以下の表6になる。

表 6 明治・大正・昭和期における「比較的」「可及的」「可成的」(延べ語数)

| 用法 「-的」 | 装定用法 | | | | | | | | 計 |
|------------|------|-----|-----|------|---|----|-----|----|-----|
| | 連用修飾 | | | 連体修飾 | | | | 計 | |
| | ニ | 語幹 | 計 | ナ(ル) | ノ | 語幹 | 助動詞 | | |
| 比較的 | 119 | 488 | 607 | 0 | 8 | 17 | 1 | 26 | 633 |
| 可及的 | 9 | 59 | 68 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 68 |
| 可成的 | 0 | 13 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| 計 | 128 | 560 | 688 | 0 | 6 | 19 | 1 | 26 | 714 |

凡例) (3)aのデータ+(3)bの『太陽』(1895-1928)『読売新聞』『朝日新聞』『婦人画報』『婦人公論』

表6によると、時期及び資料の拡大に伴って用例も多く見られるが、表2と同様に“可及的・可成的”は“比較的”と異なって連体用法を一切持たないことが分かる。このような両語の用例をあげると以下の(8)a～dのようである。

- (8) a. … 之ヲ妨ケサル限りハ可成的此ニ接近シテ之ヲ實際ニ適用セサル可カラサル者トシ且ツ其意義ヲ限定シテ … 『政府権限論』 明治17年(1884)
- b. … 而シテ社會ニ特別ノ負担ヲ課スルノ必要ナルニ当テハ可成的之ヲ平等ナラシメテ政治上ノ理由ヨリ看テ一モ苛虐ト為ス可カラサルガ如キ方法ニ從ヒ法律ヲ以テ之ヲ督制セサル可カラス … 『政府権限論』 明治17年(1884)
- c. … 故に厩戸皇子の如き功績の記すべき者甚だ多きも、可及的之を省略し、歴朝の奉佛崇釋の事も亦然り、… 『国史論』 『太陽』 明治28年(1895)10号
- d. … 一国貧民の数をして可及的減少し一般民人をして最も能く勞力報酬を均一ならしむる方法を指示するにあり、… 『国民の元気』 雑誌『太陽』 明治28年(1895)11号

- e. 若し之れに加ふるに比較的價格賤しき磷酸質肥料を以てせば、農家は肥料の上に一憂患を軽くするに庶幾からんか …
 「農業」雑誌『太陽』明治28年(1895)1号
- cf. さして是等の國々は孰れも國運の比較的に隆盛でありました所であります、…
 「戦争後の學術」雑誌『太陽』明治28年(1895)1号

本稿における調査によると、“可成的”が最も古い語幹連用用法(明治17年、(8)a・b)であって、(8)c・dの“可及的”と(8)eの“比較的”はやや遅れて明治28年(1895)になって語幹連用用法が見られるようになる。しかしその後、“可成的”の用例は伸びず、表4のように現代日本語において1例も見られないなど、語幹連用用法を有する「-的」である以前に、生産性のある語であるとは断言できない。一方、“可及的”は、“可成的”よりは初出は少し遅れるが、語幹連用用法のみならず、ニ連用用法も有していて、現代日本語においても15例の語幹連用用法及び1例のナ連体用法が見られるなど、“可成的”と比べて生産性のある語幹連用用法を持つ「-的」だとも見える。

ところが、この両語には他の「-的」との相違点が窺えるが、それは近代における“可及的”と“可成的”が本当にそれぞれ“カキユウテキ”と“カセイテキ”と読まれていたかという疑問である。以下の(9)のように、両語は“ナルタケ”と読まれていた用例が見られるなど、他の「-テキ」とは異なった側面を持つ語であった可能性がある。

(9) a. ^{なるたけ}可及的

松山棟庵・森下岩楠訳『初学人身窮理』上巻、明治9年再々刻

b. ^{ナルタケ}可成的速ニ

松岡隣訳『色物篇』明治9年8月

李長波(2006: 76)

また、以下の(10)のように、“可及的”と“可成的”に関する辞書記述を参考にするると、“比較的”と異なって両語の品詞は“副詞”であって、また(9)のような“ナルタケ・ナルベク”のような記述も見られる。しかも、現代日本語においても用例を有する“可及的”の場合、語幹連用用法である15例のうち14例・93%が、以下の(11)のように「可及的速やかに…」という慣用句として使われ、生産性はあるかも知れないが“比較的”のように多様な用法において使われるとは言いにくい。また、その全ての用例(14例)が「白書」或は「国会会議録」の用例であって、いわゆる“役所言葉”である点も注目するべきである。

- (10) a. 可及的〔副〕：及ぶかぎり。できるだけ。なるだけ。なるべく。
- 1) 旅 昭和九年(1934)一二月号・流線型機関車は走る「窓硝子を可及的(カキフテキ)外部に出し」
 - 2) 金槐集に就いて(1946)〈加藤周一〉「反対党には、買収か弾圧を以て、可及的速かに応じなければならない」
- b. 可成的〔副〕：できるだけ。なるべく。可及的。
- 1) 斯氏教育論(1880)〈尺振八訳〉一「可成的之をして精密完全ならしむ」
 - 2) 偽悪醜日本人(1891)〈三宅雪嶺〉濁〈林弁次郎〉「当今の方針たる、彼等をして可成的同一に帰せしめんと務むるもの如し」
 - 3) 音楽字典(1909)「Possibile〔伊ポッシビレ〕可成的」
- cf. 比較的〔形動〕：他の同種のものとは比べた上で、そのものの傾向や状態を判断するさま。著しくはないが、他と、または一般と比べて、ある傾向が認められることについていう。副詞的にも用いる。他と比べて。割合に。
『日本国語大辞典』第2版(2001)
- (11) a. … 調整の上決定し可及的速やかに建設すること …
「衆議院・農林水産委員会」第101回国会, 1984
- b. … 今後の両国政府間の協議を通じて可及的速やかに日韓双方の満足し得る結論を見出すべく努力してまいりたいと存じております。
「参議院・農林水産委員会」第118回国会, 1990
- c. … 調整の上決定し可及的速やかに建設すること …
「原子力白書」昭和56年版, 1982

最後に、“可及的・可成的”とその他の「一的」との間には、形態・統語論的な側面において根本的な相違点を見せている。まず、“可及的・可成的”の語基，“可及”と“可成”は抽象化できる概念は持っているかも知れないが、上記の表1のような西洋語の派生法である「名詞—形容詞—副詞」に対応する、「名詞—名詞+的+(ナ・ノ)—名詞+的+(ニ)」のような語構成及び用法を持たないのである。“可成的”は(10)b-3のように、「Possibile(possible)」或いは「possibly」に対応すると思われるが、「Possibility」といった名詞形(或いはサ変動詞)を持たない(「Possibility—Possible—Possibly」)のである。

つまり、“可及的・可成的”の語基の品詞とその意味などを考慮すると、副詞用法に最も適した語であって、連体用法における制約が生まれたと考えられる。また、近代初期におけるその読み方も他の「—テキ」とは異なって、“ナルダケ”のよう

あった可能性も高く、一つの副詞語として認識されたと考えられる。よって、“可及的”は慣用的な表現に当てられ(9)b「ナルダケ速やかに」或は「カキユウテキ速やかに」), その使用においてさらなる制約が生じて多様な用法に適応することが難しくなったと考えられる。その結果、現代日本語においては“可成的”のように衰退するか、“可及的”のように一般的な「-的」と異なる道を歩むことになったと考えられる。よって、この両語は“比較的”と比べ、語幹連用用法において生産性のある用法を有する「-的」だと言い難いと稿者は判断する。

ちなみに稿者は、以上のような連用用法に大きく偏った「-的」には、形式の面で連体用法による干渉が薄くなり、語幹連用用法が派生しやすいと考える。言いかえると、漢語同士の強い結合力、また、「-的」の主な用法が連体用法である点(明治期における連体と連用用法の比率は、**74.47% : 12.34%**)などを考えると、文法表示の仮名が省略された「… -的+漢語 …」のような文における「-的」の用法は、連体用法として認識されやすくなるのである。

例えば、以下の(12)a“論理的”の場合、連体用法の干渉により、①のように直後に続く“問題”を連体修飾する用法だと判断されやすくなる。よって、もし“解く”を修飾する連用用法が文本来の意図であれば、③のように文法表示の仮名“ニ”を必ず入れる必要がある。一方、(12)b“可成的”の場合、その意味(ナルダケ)によって副詞としての性格が強く、②のように用言を修飾する連用用法として認識されやすくなる。よって、(12)aとは逆に、直後に来る“之”を修飾する意図であれば、連体用法の文法表示である仮名“ナ”が必ず必要とされるのである。

(12) a. 論理的の問題を解く。

- ①連体用法：論理的の問題を解く。
- ②連用用法：*論理的の問題を解く
- ③連用用法：論理的の問題を解く

b. … 可成的之ヲ平等ナラシメ …

(8)b 既出：7p

- ①連体用法：*可成的之ヲ平等ナラシメ
- ②連用用法：可成的之ヲ平等ナラシメ
- ③連体用法：可成的ナ之ヲ平等ナラシメ

凡例1) 二重下線は、被修飾語を表す。 2) a)の用例は稿者による。

つまり、「-的」或は語基の意味によって、その用法において統語論的な制約が発生するが、それは結果的に用法の偏りに繋がる。またそのような意味は、同時に語幹連用用法のような例外的な用法の発生¹⁾の土台にもなるといえるだろう。

6. “比較的”の語幹連用用法①

以上のように、語幹連用用法を有する「一的」を相互比較した結果、“比較的”はその用例数と用法の種類の高さという面で、生産性のある語幹連用用法を有する唯一の「一的」であることが分かった。そこで、本節ではそのような“比較的”の様々な用法に関してさらなる考察を行い、その特徴を明らかにする。まず、前節で述べた“比較的”の統計資料を再びあげると、以下の表7のようになる(表6と表3における“比較的”)。

表 7 近代と現代における“比較的”の用法分布(延べ語数)

| 時期 | “比較的”の用法 | | | | | | | | |
|---------|----------|-----|-----|------|---|----|-----|----|------|
| | 連用修飾 | | | 連体修飾 | | | | | 計 |
| | ニ | 語幹 | 計 | ナ(ル) | ノ | 語幹 | その他 | 計 | |
| 明治期～昭和期 | 119 | 488 | 607 | 0 | 8 | 17 | 1 | 26 | 633 |
| 現代日本語 | 20 | 940 | 960 | 0 | 0 | 57 | 0 | 57 | 1017 |

凡例1) 明治期～昭和期は、(3)aのデータ+(3)bの『太陽』(1895-1928)『読売新聞』『朝日新聞』『婦人画報』『婦人公論』 2) 現代日本語におけるデータは、(3)cの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』による。 3) 本表における時代区分は、昭和を共通に持つ連続性のある区分である。

6.1 “比較的”における語基の意味とその用法

本稿の冒頭(表1)でも簡単に言及したが、明治期には西洋語の派生法に対応して状態性を表すために「一的」にナ連体用法が発生し、ノ連体用法は語幹連体用法に吸収されていた。今回の調査において“比較的”の初出は明治28年(1895)で、ちょうどそのような「一的」の用法変化の最中であったが¹⁷⁾、管見の限り明治期の“比較的”においてナ連体用法は見当らない¹⁸⁾(表7参照)。つまり、“比較的”は連用用法と連体用法を共に持つが、その連体用法というものは、明治前期の主な連体用法であるノ連体用法と語幹連体用法のみである。それは逆にいうと、“比較的”には、意味論的に状態性を表す形容詞のような連体用法(ナ連体)の必要性が低いとも言える。そこで、“比較的”の連体用法の性格を明らかにしてから論を進める

17) 金囁泳(2011: 119)の図1参照。

18) 本稿における調査によると、“比較的”のナ連体用法は1例も見られなかった。もちろん、調査を広げるとその反例は幾つか存在するが、今回の調査によると、少なくとも“比較的”がナ連体用法を好まない傾向を持っていることは確かである。

ことにするが、まず“比較的”の連体用法の時期別・用法別にあげると、以下の(13)のようになる。

(13) [近代—“比較的”のノ連体用法]

- a. … 其研究者の常に比較的の眼をもたねばならぬ事を示し、…
「国語研究に就て」雑誌『太陽』(1895)1号
- b. 然れども物事は凡て比較的のものなれば店前僅か一間の眼前に在て風の時は塵埃を散布し雨雪の時は泥濘を…
「東京市内電気鉄道敷設法」雑誌『太陽』(1895)5号
- c. 新舊貨何れも表價だけの實價を有せざるが故に、比較的の良貨も國外に逸出するの虞無し。
「経済時評」雑誌『太陽』(1901)4号

[近代—“比較的”の語幹連体用法]

- d. … 比較的近代に及びて漸く回復するを得たり…
『自助論』(1906)108頁6行
- e. … ボストン、ニューヨーク、ヒラデルヒヤの如き比較的舊開地といへども、…
「南米研究」雑誌『太陽』(1909)10号
- f. 耶蘇教の教義も耳にしてゐたので、比較的新智識を持つてゐたといふに止まる。大隈にしても、會議所に出頭する迄は、條約の何物なるかは、…
「明治初年外交物語 (その四) 八太郎の虎の巻」雑誌『太陽』(1925)1号

[現代—“比較的”の語幹連体用法]

- g. そして、ダムの濁水の長期化に影響するようなものは比較的微粒子でございまして、その微粒子がなぜ長期間にわたって貯水池の中で沈降しないままいるかということでございますが、…
「衆議院・国会会議録」第104回国会、予算委員会第八分科会、1986
- h. そういう新幹線計画が当然立てられてしかるべきだと思つておつた水沢、花巻、比較的近距離の間でそういう要望が強くなつた、要望が強くなつて駅舎を、停車場をつくる工数費を満額、…
「衆議院・国会会議録」第100回国会、運輸委員会、1983
- i. … 輸出者の負担による衰退産業保護につながるもので、価格メカニズムをできる限り活用しつつ、比較的短期の期限を設定する等の条件の下に導入されなければならないとしている。「通商白書」昭和55年版(総論)1980

以上の(13)d~iによると, 近代・現代日本語における“比較的”は, 形式的には語幹連体用法であるが, その内部の具体的な修飾関係を見ると, 他の「一的」とは異なって, まるで連用修飾とも疑えるほどに特定の傾向のある被修飾語を持っている。例えば, d「比較的近代」, f「比較的新智識」のように, 比較的が実質的に修飾している対象は, 体言の“近代”と“新知識”という漢語内部の“近い”と“新しい”の意味部分であって, “比較的”の副詞としての性格が確認できる。このような“比較的”の語幹連体用法の傾向は, g~iなどの現代日本語にまで有効であって, 次のように具体的な数値がそれを反証する。まず, 近代の“比較的”の語幹連体用法17例のうち(表7), 7例・41%が漢語内部に連体修飾構造を有する語を被修飾語として持つ(e.g. 後年(のちの年), 安眠(安らかな眠り), 壯年者(壯年の者))など, (13)d・e・f)。また, 6例・35%が研究或は方法のような被修飾語であって, “比較研究”と“比較研究方法”という特定の意味に限る((14)a・b)。しかし, 固有名詞のように内部に連体修飾構造を持たない漢語(e.g. *ここは比較的学校である)或は, 動詞を内包する漢語(e.g. *それは比較的出国である)は, “比較的”の被修飾語として好まれず, 以下の(15)のような用例は3例・18%に過ぎない。そのような傾向は, 現代日本語ではより強くなり, 全57例の(表7)全てが漢語内部に連体修飾構造を有する語である(e.g. 長期(長い期間), 低温(低い温度), 小規模(小さな規模)など)。

- (14) a. 吾等は文學, 殊に印度文學の比較的研究の我文壇に行はれんことを熱望す, … 「文学」雑誌『太陽』(1895)8号
- b. … 此邊の佛教僧侶は, 多くは無學無識なれば, 比較的宗教學, 否, 神佛像の比較研究の困難にして, 古來何人も満足なる説明を与へざるは, 誠に無理ならぬ … 「特別通信 錫蘭島の古今」雑誌『太陽』(1901)7号
- (15) a. … (二) 各種家畜の各機關若くは体部の比例及比較的发育, (三) 家畜の肥^マニに關する事項, … 「農業世界」雑誌『太陽』(1901)5号
- b. … 此事實は耕種の業盛なる地方に於て牧羊業の比較的衰替を指示す, 西部山岳部に於ける放牧は東部耕種地に於ける牧羊業を … 「農業世界」雑誌『太陽』(1901)4号
- (16) a. 今回の企画は比較的小規模である。
- b. *今回の企画は比較的規模である。

以上の(16)のような、“比較的”の語幹連体用法における被修飾語の制約は、“比較的”の語基における性格(動詞)によるもので、その意味こそが結果的に“比較的”に副詞のような意味・機能を与えたと稿者は判断する。つまり、“比較”は名詞でありながら動詞でもあるが¹⁹⁾、その中で主に動詞としての属性・性質こそが話者によって選ばれ、抽象化されたのである。言いかえると、“比較的”は、他の「-的」における派生法「名詞—形容詞(名詞+的+ナ)—副詞(名詞+的+ニ)」≡「Comparison—Comparable—Comparably」≡「比較—比較可能な・匹敵する—比較可能なほどに・匹敵するほどに」であるより(その他「-的」の語基は、主に動詞を含まない名詞、表8参照)、「動詞—形容詞(動詞+的)—副詞(動詞+的)」≡「Compare—Comparative—Comparatively」≡「比較する—他と比較した場合の・相対的な—他と比較した場合に・比較的に」のような派生法に対応していると見た方が妥当である。近代における“比較的”の語幹連体用法の約35%が、研究或は方法のような被修飾語を持つことは(表7)、“比較言語学”が“Comparative linguistics”で、“比較研究”が“Comparative literature”であることを考慮すると納得がいく。つまり、このような語基である“比較”の意味によって、“比較的”は状態性を表す形容詞のような用法(連体用法)より、副詞の用法(連用用法)に偏るようになったと考えられる。それは、上記の“Comparative”の訳である「他と比較した場合の・相対的な」²⁰⁾に見える“相対的”を、以下の(17)のように、“比較的”と比較すると、“比較的”の副詞的な性格がより明らかになる。

- (17) a. “相対的”の語幹連体用法
 1) 相対的価値 2) ?相対的近距離
 b. “比較的”の語幹連体用法
 2) *比較的価値 2) 比較的近距離
 cf. 連用用法
 1) 相対的二近距離 2) 比較的価値が高い

19) 2節の先行研究で少し言及したが、原(1986)は、“比較的”の語基“比較”には形容詞用法がなく、名詞或は動詞の意があるといい、元々はそのような語は「-的」の語基として相応しくないが、“比較”は例外的に許容されていると述べている。

20) Comparative 1) 比較の；(研究法など) 比較による [を用いる] 2) 他と比較した場合の、相対的な、かなりの 『プログレッシブ英和中辞典』第4版、小學館、2002

表 8 明治期, “比較的”以外の「一的」の連用用法の語基の品詞分布(延べ語数)

| 「一的」 | | 語基の品詞 | | | |
|-------------|----|-------|----|----|------|
| | | 名詞 | 動詞 | 副詞 | 形容動詞 |
| “比較的”以外のその他 | 用法 | | | | |
| | ニ | 180 | 28 | 19 | 11 |
| | 語幹 | 4 | 0 | 3 | 0 |
| 計 | | 184 | 28 | 22 | 11 |

凡例 1) (3)a)におけるデータによるもの。

2) 語基の品詞は, 動詞の判定を優先した。 e.g. a) 名詞分類: 機械・化学 b) 動詞分類: 挑戦・生産

3) 語基の品詞の判断が難しい“句・節・文”などの語は除外した。

以上のような考察を総合すると“比較的”は, その語幹の語種(漢語)と品詞(名詞・動詞)及び用法(装定一連体・連用)という多様な側面において, 他の「一的」が有する条件を表面的には満たしているため, その副詞としての性格があまり注目されず, もっぱら語幹連用用法を有する例外的な「一的」であると認識されてきたと思われる。しかし“比較的”は, その連体用法において被修飾語の制約が存在し, その用法が連用用法に大きく偏っていることなどを考慮すると, 完全なる連体用法を有する「一的」であるとは言い難く, 副詞としての性格が強い「一的」であると判断されるものである。

6.2 副詞としての“比較的”

それでは, 以上のように連用用法に偏っている“比較的”の副詞としての位置づけはいかなるものであろうか。本節では, “比較的”とその他「一的」の連用用法との比較を通じて, 副詞としての“比較的”の連用用法の性格を明らかにする。

工藤(1983)は, 副詞には主に動詞と組み合わせられる“情態副詞”と, 種々の形容詞と組み合わせられるのを基本とする“程度副詞”²¹⁾が存在すると述べ, “比較的”は“非常に・大変(に)”等とともに“程度副詞”であると述べた。今回の調査によると, 明治期の“比較的”の連用用法の全40例中34例・85%が用言(形容詞・形容動詞・副詞)を被修飾語とするが, 動詞を被修飾語とする用例は6例・15%に過ぎなかった(表9)。また, 現代日本語の場合, 用言を被修飾語とする用例は全903例中820例・91%まで上る(表10)。

つまり“比較的”は, 主に形容詞・形容動詞のような状態性の意味を持つ語を対

21) … 程度副詞の規定は, <(相対的な)情態性の意味をもつ語にかかって, その程度を限定する副詞>というものだろう … (工藤:1983)。

象として、その程度を限定する“程度副詞”の用法に傾いていると言えよう。このようなことを念頭において、“比較的”と形容動詞及びその他の「-的」の連用用法における比較を行うことにする。

まず、一般の形容動詞の連用用法は、以下の(18)のように、被修飾語の動詞が自動詞か他動詞かによって表現できる意味あいの範囲が制限される(但し、副詞の位置は考慮しない)。

- (18) a. 真田は賢明に計画を遂行した。
 1) 真田の計画を遂行する方法が賢明であった。
 2) 真田が計画を遂行したのが賢明であった。
 b. 真田は賢明に生きた。
 1) 真田の生き方は賢明であった。
 2) *真田が生きたのが賢明であった。

このような文型に「-的」を適用すると、まず“比較的”以外の「-的」の場合、以下の(19)のように、(18)a)に適用できる。つまり、その他「-的」は形容詞・形容動詞の終止用法、つまり述定用法が可能である(e.g. 彼は献身的／道徳的だ)。

- (19) 武田は献身的に計画を遂行した。
 a. 武田の計画を遂行する方法が献身的であった。
 b. 武田が計画を遂行したのが献身的であった。

しかし、“比較的”はやや事情が異なる。“比較的”は話者に内在している社会的・個人的な基準に従って物事の程度性を測る、程度副詞のような性格を持っていて(時：1999)、そもそも被修飾語なしに自ら直接述語になることはできない上、今回の調査(明治期)においても同じく、このような用例は存在しなかった(e.g. *彼は比較的だ、表7において0例)。

つまり“比較的”は、そもそも動詞が被修飾語となることを好まない上、さらに(19)のような他動詞を被修飾語として持つ連用構文には現れ難く、共起するとしても主に自動詞を修飾する傾向がある(表9と表10参照)。また、“比較的”が他動詞を修飾するとしても以下の(20)のような受身構文がほとんどである((3)a)における比較的”の二連用用法の場合、100%)。

表 9 明治期, 「一的」の連用用法の被修飾語の品詞分布(延べ語数)

| 被修飾語の品詞 | | 名詞 | 動詞 | | | 形容動詞 形容詞 副詞 |
|----------------------|----|----|-----|-----|-----|-------------------|
| 「一的」 | 用法 | | 自動詞 | 他動詞 | 計 | |
| “比較的” | ニ | 0 | 2 | 1 | 3 | 8 |
| | 語幹 | 0 | 2 | 1 | 3 | 26 |
| | 計 | 0 | 4 | 2 | 6 | 34 |
| “比較的”以外の その他の「一的」 | ニ | 0 | 61 | 127 | 188 | 9 |
| | 語幹 | 0 | 1 | 6 | 7 | 0 |
| | 計 | 0 | 62 | 133 | 195 | 9 |

凡例 1) (3)aにおけるデータによるもの。 2) 語基の品詞の判断が難しい“句・節・文”などの語は除外した。

表 10 現代日本語における“比較的”の連用用法の被修飾語の品詞分布(延べ語数)

| 被修飾語の品詞 | | 名詞 | 動詞 | | | 形容動詞 形容詞 副詞 |
|---------|----|----|-----|-----|----|-------------------|
| 「一的」 | 用法 | | 自動詞 | 他動詞 | 計 | |
| “比較的” | ニ | 1 | 4 | 0 | 4 | 37 |
| | 語幹 | 13 | 65 | 14 | 79 | 783 |
| | 計 | 14 | 69 | 14 | 83 | 820 |

凡例 1) (3)cにおけるデータによるもの。 2) 語基の品詞の判断が難しい“句・節・文”などの語は除外した。

(20) … また系統を重んずる風習よりして子を有せる母は概して比較的に善遇せらる、されど広く亜非利加人各種族を …

「米國理科雜誌」 『太陽』 明治28年(1895)5号

そこで、中井悟(1974)による副詞における分類を取り入れてさらに考察を行うことにする。同氏は、副詞の種類を“結果の副詞”“様態の副詞”“文副詞”といった三種類に分類し、以下の(21)のような用例をあげた(但し、同氏は自動詞・他動詞に関する言及はしていない)。

(21) a. 結果の副詞：私は鉛筆を細くけずった。

→ 私は鉛筆をけずった。その結果、鉛筆は細くなった。

1) 鉛筆が細い。 2) *私が細い。

- b. 様態の副詞：私は鉛筆を速くけずった。
 → 私の鉛筆のけずり方は速かった。
 1) *鉛筆は速い。 2) 私は(鉛筆のけずり方が)速い。
- c. 文副詞：彼は、間違いなく犯人だ。
 1) 間違いなく、彼は犯人だ。
 2) 彼が犯人である(の／こと)は、間違いなく。

中井悟(1974：28-33)

まず、その他「-的」が他動詞を修飾する場合、それを以上の(21)のような分類基準に適用すると、以下の(22)aのように“様態の副詞”として分類される。しかし“比較的”の場合、前述したように他動詞との共起が難しく、あるとしても(22)bのような他動詞の受身のみを有する。また、それを無理やり(22)b-1のように他動詞構文に変換しても、“比較的”は“結果の副詞”と“様態の副詞”のどちらにも属さず、(22)b-2・3のように“文副詞”に属することが分かる。

- (22) a. あなたは冷静に合理的に此問題を論ずる …
 1) あなたの此問題の論じる方は合理的であった。
 1-1) *此問題は合理的。
 1-2) あなたは(此問題の論じる方が)合理的。
 「二十世紀」明治44年(1911)『明治翻訳文学全集』15巻373頁
- b. … また系統を重んずる風習よりして子を有せる母は概して比較的に善遇せらるる、されど広く亜非利加人各種族を … (20)既出：13p
 1) ○○は、子を有せる母を比較的に善遇する。
 1-2) *子を有せる母は比較的である。
 1-2) *○○は比較的である。
 2) 比較的に子を有せる母は善遇せらるる。
 3) ?子を有せる母が善遇せらるるのは、比較的だ。

「米國理科雑誌」『太陽』明治28年(1895)5号

つまり、以上を簡単にまとめると、上記の表9のように“比較的”とその他の「-的」の連用用法は、被修飾語の品詞の主な傾向において異なる(主に形容詞或は形容動詞：主に動詞)。また、“比較的”が直接に述語として用いられない(述定用法の不成立)反面、その他の「-的」は可能である。さらに、両者の副詞としての性格によって分類すると、“比較的”が“文副詞”，その他「-的」が“状態の副詞”

に近く、互い異なる性格を持つ連用用法であることが確認できる。

6.3 “比較的”における語幹連用用法の発生

前節までは、“比較的”の意味とそれによる統語論的用法の制約や、“比較的”とその他の「-的」の連用用法における比較を通じて“比較的”における副詞としての特徴などに関して述べた。本節では、そのような考察を踏まえて、“比較的”の語幹連用用法の発生原因を明らかにする。

表5の“自動的・値段的”，また“可及的・可成的”に関する記述でも少し言及したが、「-的」にはその語基の意味によって、装定か述定か、また装定であれば連用か連体かという統語論的な用法における偏り或は制約が発生する。例えば“比較的”の用法も、その語基の意味によって状態性を表す形容詞のような用法(連体用法)より、副詞のような用法(連用用法)が好まれるようになり、連用用法に偏るようになった。つまりそれは、“比較的”において連体用法の発生の可能性が低くなることを意味する同時に、「比較的+被修飾語」という“語幹用法”が“語幹連体用法”ではなく、“語幹連用用法”として認識される可能性が高くなることを意味する。しかも“比較的”の連用用法は、“程度副詞”でありながら、“文副詞”であると前節ですでに述べたが、そのような“比較的”の用法における副詞としての特徴が、語幹連用用法の拡張にさらなる影響を与えたと考えられる。そこで、5.2.2節の(12)における“可成的”と同様なテストを、“比較的”に適用すると、以下の(23)のようになる。

(23) a. 論理的問題を解く。

①連体用法：論理的問題を解く。

②連用用法：*論理的問題を解く

③連用用法：論理的問題を解く

b. … 海島としては、比較的平地多き処に候現今此島の首府古倫母は、 …²²⁾

①連体用法：*比較的平地多き処に

②連用用法：比較的平地多き処に

③連用用法：比較的平地多き処に

凡例1) 二重下線は、被修飾語を表す。 2) a)の用例は稿者による。

“比較的”の場合、統語論的に連用用法に偏っているために副詞としての性格が強く、(23)b)の文における“比較的”の語幹用法は、②のように用言(多き)を修飾する連用用法として認識されやすくなる。従って、(23)b)の文における“比較的”の語幹用

22) 「特別通信 錫蘭島の古今」『太陽』明治34年(1901)7号

法の意図が直後に来る“平地”を修飾することであれば、連体用法の文法表示である仮名“ナ”を入れて文法関係を強化する必要がある。つまり、“比較的”或は語幹である“比較”の意味によって、その用法において統語論的な制約或は偏りが発生した同時に、語幹連用用法も発生したと考えられる。もう一度用例をあげると、以下の(24)のように、文のどこに位置しても“文副詞”である“程度副詞”の“比較的”は連体用法の干渉を突き放して連用用法として認識されることが確認できる。

- (24) a. 比較的の人口が少ないところへぼんと置くのが開発的立地と言われておりますけれども、比較的成功例は調整型立地のところに多いというのは歴史の示す今までの例でございます。「参議院・国会会議録」第154回国会、国会等の移転に関する特別委員会、2002
- b. 尤も運賃に於て郵船会社船は廻送期日等の正確なるだけに比較的他の社外船に托する場合の運賃よりも高しとす、…
「北海道の大豆」『太陽』明治34年(1901)9号

7. おわりに

本稿では、“比較的”とその他「-的」における連用用法を中心に「-的」の連用用法に関して考察を行い、次のような点を明らかにした。

- 1) 語幹連用用法を有する語は大きく二つに分けられるが、一つは一時的な語幹連用用法を有して生産性のない「-的」であり(e.g. 遠心的)、もう一つは語基の意味などの要因による統語論的な用法制約、つまり語幹連用用法を有するようになった「-的」である。さらに後者には、現代日本語にまで生産性のある語幹連用用法が派生された語(e.g. 比較的)とそうではない語が存在する(e.g. 可成的)。
- 2) その中で“比較的”は、語基である“比較”の意味によって、統語論的な制約或は偏りが発生したと同時に語幹連用用法も派生することになったのである。
- 3) つまり、「-的」には、その語基の意味によって、統語論的な用法における制約或は偏りが発生するが、その代表的な例が語幹連用用法である。

参考文献・調査資料

【参考文献】

- 尾形仿解説(1976)『小説三言』：『小説奇言』(1753)
- 大島潤子(1997)「程度副詞“比較”の意味分析」『中国語学』244, 72-80, 日本中国語学会
- 金暻泳(2009)「「-的」の日本語化」『2009年度日本語学会春季大会予稿集』85-92, 日本語学会, 於武庫川女子大学, 2009年5月31日
- (2010a)「「-的」の語基制約」『日本語学研究』第27輯, 1-13, 韓国日本語学会, 2010年03月20日
- (2010b)「連体修飾用法に関する一考察——「A的/B」「A的B」「A的+B」形式を中心に——」『日語日文学研究』73輯, 89-109, 韓国日語日文学会
- (2010c)「「-的」の連用用法—「比較的」と「可及的・可成的」—」『韓国日語日文学会2010年度秋季國際學術大会—発表論文集—』83-88, 韓国日語日文学会, 於韓国・慶熙大学, 2010年10月16日
- (2010d)「「-的」の連用用法—「比較的」を中心に—」『2010年度台湾日本語文学國際學術研討会—発表論文集—』293-300, 台湾日本語学会, 於台湾・淡江大学淡水校園, 2010年12月18日
- (2011)「「-的」の日本語化」『日本語学研究』第30輯, 105-126, 韓国日本語学会
- (2012)「明治期における「-的」の用法の変遷—連体修飾用法を中心に—」『国語語彙史の研究』31, 261-280, 国語語彙史研究会, 和泉書院
- 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』辺実編, 明治書院
- 時衛国(1999)「中国語と日本語における程度副詞の対照研究—「比較」と<比較的>」『富山大学人文学部紀要』31, 239-261, 富山大学人文学部
- 中村幸彦編(1985)『近世白話小説翻訳集』全13巻中, 1巻：『通俗醉菩提全伝』天花藏主人著・碧玉江散人訳, 宝暦9年(1759)・『通俗隋煬帝外史』齊東野人編・贅世子訳, 宝暦十年(1760)／2巻：『通俗赤繩奇縁』馮夢竜編・贅世子訳, 宝暦11年(1761)／4巻：『通俗醒世恒言』馮夢竜編・石川雅望訳, 寛政2年(1790)
- 森山卓郎(1985)「程度副詞と動詞句」『京都教育大学国文学会誌』第20号, 60-65, 京都教育大学国文学会
- 李長波(2006)「近世, 近代における「~的」の文体史的考察」『DYNAMIS』10号, 68-89, 京都大学大学院
- 渡辺実(1990)「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』23, 1-16, 上智大学国文学会

【調査資料】

【翻訳テキスト】

- 『明六雑誌 復刻版』1-20号(1998), 大空社
- 『西国立志編 改訂版』(1877)中村正直訳, 木平謙
- 『自助論』(1907)畔上賢造訳, 内外出版協会

- 『自助論』(1912)小山内薫・中村徳助共訳
- 『明治期翻訳文学全集・イギリス文学編』中一部(1998)大空社, CD-ROM: 「魯敏孫全伝」, 「暴夜物語」, 「回世美談」
- 『蚕種説』(1869)柳川春三訳, 吉田屋: 近代デジタルライブラリー
- 『鞋補童教学』(1873)佐橋富三郎訳, 近藤四良兵衛等: 近代デジタルライブラリー
- 『器械撮説一』1・2巻, 『器械撮説二』3巻(1875)大島長四郎訳・桂川甫策閲, 一貫堂: 近代デジタルライブラリー
- 『仏国革命史・3巻』(1876)河津祐之訳, 加納久宣: 近代デジタルライブラリー
- 『化学分析表』(1879)熊沢善庵訳, 丸屋善七: 近代デジタルライブラリー
- 『春風情話』(1878)橋頭三訳(坪内逍遙), 中島精一: 近代デジタルライブラリー
- 『政府権限論』(1884)高橋達郎訳・河津祐之閲, 岡島支店: 近代デジタルライブラリー
- 『開卷悲憤／概世士伝 はしがき』(1885)坪内逍遙訳, 晚青堂発兌: 近代デジタルライブラリー
- 『代数学』(1887)熊沢善庵訳, 嵩山堂: 近代デジタルライブラリー
- 『明治翻訳文学全集』全20巻(2003)中一部, 大空社
- 「春風情話」(1880)「開卷悲憤／概世士伝 はしがき」(1885)「婚姻」(1890)「西文小品(旅行の説)」(1891)「西文小品(費の説)」(1891)「雷小僧」(1892)「滑稽氏」(1892)「不思議の後家」(1892)「湖畔妖物」(1892)「夜と朝」(1893)「扇子使用法の練習」(1893)「一シリング銀貨の履歴」(1893)「千人会」(1893)「ジョセフ, アチソンの散文」(1895)「心の解剖」(1897)「四季賦」(1901)「モルモン奇譚」(1901)「夜のけはひ」(1902)「小曲, 恋の王座」(1902)「春の潮」(1902)「恋の葬」(1902)「むなしき月日」(1902)「食人会」(1903)「該撒惨殺事件」(1903)「紳士」(1903)「助言」(1903)「無政府党と一夜」(1903)「無音の瀑」(1903)「稀有の裁判」(1903)「造人術」(1903)「名曲「愛禽」」(1903)「庭園の快樂」(1903)「女の眼に映するこよなきもの」(1903)「新アラビヤナイト」(1903)「王女の旅」(1903)「心情」(1905)「何も言へぬ」(1909)「砂時計」(1909)「戯曲／馬盜坊」(1910)「二十世紀」(1911)
- 『明治文化全集』全28巻(1992)中一部, 復刻版, 日本評論社
- 「英政如何」(1868)「西洋開拓新説」(1870)「西洋家作雛形」(1872)「航海夜話」(1872)「防雷鍼略説」(1873)「通俗伊蘇普物語」(1873)「開卷驚奇暴夜物語」(1875)「代議政体」(1875)「欧洲奇事花柳春話」(1878)「物理了案」(1879)「大森介墟古物編」(1879)「政治論略」(1881)「主勸論」(1883)「動物進化論」(1883)「人肉質人裁判」(1883)「該撒奇談自由太刀余波鋭鋒」(1884)「泰西活劇春窓綺話」(1884)「仇結奇の赤縄西洋娘節用」(1886)「百工開源」(1886)「露妙樹利戯曲春情浮世の夢」(1886)「一名西洋歌舞伎種本」(1886)「脳髓生理精神啓微」(1889)「精神病者の書態」(1892)「蘭疇」(1902)

【非翻訳テキスト】

- 『助語審象』巻之下(1817)三宅邦(橘園三宅)口授, 菱屋孫兵衛, 早稲田大学古典籍総合データベース

『諸芸袖日記』1-5之卷(1743)八文字自笑・八文字其笑, 早稲田大学図書館・古典籍総合データベース

『哲学字彙』(1881)井上哲次郎他, 東京大学

『哲学字彙 訳語総索引』(1979)飛田良文編, 笠間書院

『洋算用法二篇』(1870)鷺尾卓意(保)著, 柳河春三(日敦)関, 大和屋喜兵衛: 近代デジタルライブラリー

『化学新論問答』1卷(1875)宇都宮三郎・桂川甫策述, 加藤宗吉記, 一貫堂: 近代デジタルライブラリー

『英仏百年戦記』(1876)河津祐之, 松栢堂: 近代デジタルライブラリー

『近代文学大系』『近代評論集I』全評論110件(タイトル省略)(1972)

『青空文庫』<http://www.aozora.gr.jp/>

「慶応義塾新議」(1869)「学問のすすめ」(1872)「中津留別の書」(1872)「京都学校記」(1872)「学者安心論」(1876)「旧藩情」(1877)「教育の目的」(1879)「経世の学, また講究すべし」(1882)「徳育如何」(1882)「物理学の要用」(1882)「学問の独立」(1883)「武蔵野」(1887)「新女大学」(1899)「言海・ことばのうみのおくがき」(1891)「修身要領」(1900)「瘠我慢の説(1月)」(1901)「瘠我慢の説(5月)」(1901)

『新潮文庫100冊』(1995)新潮社版, CD-ROM

「たけくらべ」(1895)「高野聖」(1900)「破戒」(1906)「野菊の墓」(1906)「悲しき玩具」(1910)「遠野物語」(1910)「こころ」(1914)「高瀬舟」(1916)

Histoire de la Revolution francaise depuis 1789 jusqu'en 1814(1838)François-Auguste-Marie-Alexis, Bruxelles: Riga, University of Ottawa

History of the French revolution, from 1789-1814(1856)François-Auguste-Marie-Alexis, London: Bohn, University of California Libraries

Plays Pleasant: You Never Can Tell(1898)George Bernard Shaw, The Project Gutenberg

Self-Help—With illustrations of Character—(1869)Samuel smiles, Conduct, And Perseverance. John Murray

【データベース類】

『朝日新聞戦前紙面データベース』(2001~2002)東京朝日新聞社, CD-ROM

『太陽コーパス』—雑誌『太陽』(1895-1928)日本語データベース(2005)国立国語研究所, 博文官新社, CD-ROM

『婦人畫報・臨川書店編集部編』(2004~2005)臨川書店編集部, 臨川書店, DVD-ROM

『婦人公論』(2006)臨川書店編集部, 臨川書店, DVD-ROM

『読売新聞』(1999~2002)読売新聞社メディア企画局データベース部, CD-ROM

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』「BCCWJ領域内公開データ(2008年度版のモニター公開データ)」(2008), 国立国語研究所, DVD-ROM

【辞書類】

『広辞苑』第6版, 新村出編(2008)岩波書店

『大辞林』第3版, 松村明編(2006)三省堂

『デジタル大辞泉』 <http://kotobank.jp/dictionary/daijisen>

『日本国語大辞典』第2版(2001)日本国語大辞典編集委員会編, 小学館

『明治期国語辞書大系[普]』1-12巻(1997): 「語彙」「漢英対照いろは辞典」「ことばのはやし」「和漢雅俗いろは辞典」「日本辞書 言海」「日本大辞典」「増訂二版 和漢雅俗いろは辞典」「日本大辞林」「日本新辞書」「帝国大辞典」「日本新辞林」「ことばの泉」

『プログレッシブ英和中辞典』第4版(2002), 国広哲弥他, 小学館

- 김유영(KIM, Yu-Young)
- 소속: 오사카 대학교
(Division of Studies on Cultural Expressions, Osaka University)
- 전자우편: yuiyu@korea.ac.kr

- 접수: 2012.01.20.
- 게재결정: 2012.03.16.